

平成29年度

研究部報

秋田県立横手支援学校 研究部
平成29年10月31日発行 第3号

前回紹介しきれなかった9月、10月の学部授業研究会、ミニ授業研究会での授業改善の様子について、お伝えします。

◎ 中学部学部授業研究会



中学部3年 「チームワークで準備しよう②～お茶会のレベルアップ」(協力してお茶会の準備をする)

協議題	<ul style="list-style-type: none"> 自己表現が苦手な生徒や言葉での自己表現が難しい生徒が、自分の役割が分かって行動するための支援。
協議題についての改善案・助言等	<ul style="list-style-type: none"> 静かに座っているということも授業参加の役割の一つ。それをしっかり果たしていた。 教師が子どもたちの気持ちや状況を代弁し、周りに知らせる。 教師間で「自分でできる」状況や姿を共通理解する。(どんな姿が自分でできた姿なのか) ペアで活動する場面を設定する。それがチームワーク(「自分たちで」)につながる。 子ども同士の関わりを意図的に設定する。⇒普段からの取り組みが大切。子ども同士の関わりを意識し、机を友達と運ぶ活動を設定する等。 表での役割を提示していたが理解できていたか? ⇒具体的に演示する支援も必要。

改善授業

改善の内容	<ol style="list-style-type: none"> ①「学習の流れ・時間の見える化」→カードで示し、時間を感じ覚的に捉える工夫。 ②「生徒間のかかわりや学びあい」→ペアでの活動→必然性のあるかかわり合い。 ③「教師の役割分担」→T1 だけで授業を進めないように、生徒の声や表情を拾う。 ④「知識技能の習得に向けて」→調理のポイント等を意識させる指導内容の検討。
授業者から	<p>生徒同士の学び合いやかかわりについて考える機会となった。意図的な場面を設定する必要もあるが、そこに生徒にとって関わる必然性があるのかといった点を考えて、活動を検討していきたい。</p>

◎ 高等部学部授業研究会



高等部3年1グループ 「食生活と健康」(日常生活の食事の中の食塩量を知り、減塩について協力してお茶会の準備をする)


協議題	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人と考えを伝え合って合意形成を図ったり、自己の考えを深めて表現したりする力(自分らしさを発揮する力)を育む支援について
協議題についての改善案・助言等	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いを深めるために、内容を焦点化(例えば学校でできること、家庭でできることなど)する。 生徒それぞれに味覚が異なったり、塩分量が分かりにくかったりしたようであった。合意形成や共有のためには、全員が共通してイメージできる基準になるものを用意する。 話し合いが深まるように、話し合いのルールやきまりを提示する。 授業の中で「健康的な生活を送る」ことについて、誰と誰が合意形成を図ることを想定しているのか? そこが明確でないと、適切な支援をすることが難しい。 この授業を生徒同士の関係で考えると、自己の考えを深めて、それを表現する学習であった。⇒「子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める」(対話的な学びの視点)につながる。

改善授業

改善の内容	①「導入のスリム化(話し合い、思考の時間確保)」→振り返りテストを口頭での確認にした。 ②「話し合う内容の焦点化」→「自分が今日からできそうなこと」を考え、プリントに記入する。
授業者の	改善を行うことで、生徒同士で意見を出し合い試行錯誤する様子が見られた。話し合う内容を焦点化することで、自分の意見を出す様子が見られた。また、生徒同士ヒントを出したり、体験を話したりする場面も見られるようになった。

◎ミニ授業研究会

小学部6年「朝の活動、朝の会」

オーダー	現在の小6の【朝の時間】と、中学部の【朝の時間】のギャップはどのくらいあるのか。卒業に向け、どのような学習を行っていけばいいのか。	
オーダーについて改善	<ul style="list-style-type: none"> •手元に時計などを置いて、朝の会に間に合うなど活動の時間を意識できるようにする。 •人前で脱がないなど、他者、特に異性への意識を今のうちに身に付けておいてほしい。肌を出して着替えない、着替えの時は戸を閉めるなどの意識を今のうちに。 •肢体不自由を併せ持つ児童について、一連の活動の中でどのタイミングで着替えるのか、着替えを自分で行う、依頼することのバランスをどう取るかを検討する。 •児童同士で朝の会を進められる力がある。教師が準備などをしてしまっている。直接的支援を減らしながら、司会などを一人でできる支援を考える。 •「ぐんぐんタイム」→「国語、算数」など教科名への移行を考えてほしい。 ◇中学部への移行だけでなく、卒業後の生活を見越して、今どんな力が必要かという観点で考えてほしい。	

授業者の先生方、ありがとうございました。11月も中学部全校授業研究会、小学部学部授業研究会をはじめ、授業改善の取組が続きます。多くの方の参加をよろしくお祈いします。

第5回職員研修会「話し合うことについて」

阿部洋一教頭先生から9月30日に「話し合うこと」について講義をしていただきました。授業研究会でも「話し合い活動」「児童生徒の関わり」についての話題に上がるなど、先生方にとってニーズのある、関心が高い内容でした。研修会後のアンケートをいくつか紹介します。

- 「人は人によって磨かれる」「人と関わることで人間性が育つ」など、話す、話し合うことが、どれだけ大切なことか、意味のあることが再確認できた。
- 話し合うための土台として「話せる人間関係」が大切だと改めて感じた。
- 話し合いのテーマ設定では「話し合う内容をシンプルにする」、伝え合う手段は「言葉だけでなくたくさんある」など、クラスの生徒の実態に合わせて考えることができた。
- 「話し合いをする」と考えると難しく感じるが、「関わる活動→伝える活動→伝え合う活動」と考えると分かりやすかった。

阿部洋一教頭先生ありがとうございました。

